



# 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (DC会館)  
電話 { (鉄電) 千葉 2935・2939 番  
(公) 043(222)7207 番  
FAX 043(224)3197 番  
2000.11.29 No. 5231.

# 貨物「1.72月」超低額回答弾劾

## — 抗議の総決起集会開催 —

貨物会社は、十一月二十七日二〇〇〇年度年末手当について夏と同額の「一・七二箇月」という超低額回答を行った。われわれは、貨物で働く労働者の生活と意思を考えると、この超低額回答を断じて容認することはできない。貨物会社はただちに組合要求に基づき再回答を行え。

貨物会社は七年連続の赤字決算のなかで、正念場に立たされている。今年も三月の有珠山噴火による室蘭本線の不通、夏の東海地区の水害などで予定していた年度計画を下回った。七月に計画を下方修正したが収入減は続き、十月に再度修正したが、それすら下回る収入が続いている。

こうした状況下で貨物会社は「収入が減るなら経費の削減」と経費削減を徹底し、とりわけその狙いを人件費に据えている。「収入にしろ人件費の割合がいつまでも三五%を下回らない」と、ベ・アゼロに続き夏季手当を「一・七二箇月」に引き下げ、さらに今年年末手当を夏と同額に据え置く回答を行った。昨年の手当は夏が「一・七五箇月」、年末が「一・七五五箇月」と、会社が生活給部分と言っていた「年三・五箇月」ギリギリだったが、今年はその割りを削いだ。超低額回答に対する怒りの声が職場には大きく充満している。

日貨労はこの「回答」をそ

の場で「妥結」した。分割・民営化を承認・推進し、「新労使協力宣言」を結んでいることが、この超低額回答に結びついている。日貨労を倒さないかぎり、貨物の労働者の低賃金は続く。いまこそ貨物の中から組織強化・拡大にうつて出よう。



### 超低額回答に怒り噴出！

緊急総決起集会は各支部から九〇名の結集のもと、川崎執行委員の司会で始まった。はじめに主催者あいさつとして布施副委員長より、「今日回答があり、『一・七二箇月』という内容であった。東日本の約半分であり納得できない。

本日の集会の趣旨も弾劾集会ということだ。こうした中でも、貨物・東の労働者の団結を忘れてはならない。動乗動も同じ内容なのだから、貨物の労働者の働き度が悪いわけではない。西日本ではこの春から勤務評価制度に移行している。これまで基本給の部分には手をつけなかったが西でそれを崩してきた。いま会社間の格差がおかしい、弾劾すると言っているが、同じ会社、同じ職場のなかでも格差が出てくる。そうなる格差はしょうがないとする危険性が出てくる。労働者として守るべきことは守っていかねばならない。分割・民営化の根本に貨物の格差がある、団結してそれをねかえしていこう。

と怒りをこめてあいさつした。つづいて柴崎貨物協議長が「貨物の労働者は年三回さびしい思いをしている。冗談にまぎらわしているが、悔しさはある。これをどこへぶつければいいのか。『一・七二』では希望はもてないが、今後職場で団結してやってみよう」とあいさつをした。君塚副委員長が年末手当交渉の報告を行い、「九〇年に格差が始まって以来、十年で手当てだけでも十・七七箇月の差になった、日貨労の裏切りを許さず、怒りを忘れずにやってみよう」と訴えた。つづいて田中書記長が基調提起を行った。「日貨労はたっ

た三十分のトップ交渉で妥結を決めた。日貨労はこの前新労使協力宣言を結んだが、これは賃金を下げていると組合が言っているようなものだ。超低額回答に怒りをぶつけていこう。貨物の仲間の思いをうけとめてやってみよう。手当ての削減も、有珠山や水害で収入が四四億減ったが支出は五五億減らしている。収入より支出の減りが大きい。これが資本の本質だ。労働組合がだらしないうからこうなっている。動労千葉はこれからも労働組合の原点、原則をやってみよう。貨物のこれからの課題として、二日からの京葉線乗り入れがある。当面千葉だけだが、いずれ他も乗り入れしてくる。新小岩の存続の問題も依然としてある。職場を確保しつつ闘いぬこう。また東日本のシニア制度と検修・構内外注化阻止へ、来春にむけて一大闘争を構えよう。JR総連は、九州労の大量脱退問題やJR総連OBの拉致問題など組織的危機に入っている。組織強化・拡大に全力で立ちあがろう」と来春にむけた闘いの展望を明らかにした。

基調をうけて、貨物支部から宮内千葉機支部副支部長、服部新小岩支部長がそれぞれ決意を明らかにするとともに、旅客各支部代表も貨物の仲間とともに闘う決意を表明した。最後に組合歌合唱、君塚副委員長長の団結ガンパローで集会を終了した。